

■北海学園大、釧路公立大が白星発進。第51回北海道学生選手権が開幕

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権は8月24日、北海学園清田グラウンドラグビー場で開幕し、1部の2試合を行った。前年2位の釧路公立大は同5位の東京農業大に35-6で快勝し、前年優勝の北海学園大は同6位の帯広畜産大を26-14で下した。第2節は8月31日（日）、札幌市円山競技場で、第52回肢体不自由児者チャリティアメリカンフットボールゲーム『ポテトボウル2025』として2部の北海道科学大-札幌学院大（午前10時開始）、1部の北海道大-室蘭工業大（午後1時開始）を行う。

第1試合は釧路公立大がラン攻撃で東京農業大を圧倒して快勝した。釧路公立大は第1Q11分、QB中西亮太（4年）からRB宮川祥瑞（2年）への36ヤードパスで先制すると、第3Q開始直後にはRB畠山恵太（3年）の57ヤードランが飛び出して加点。同5分にもRB佐々木葵空（4年）が5ヤードランを決めて21-0とリードした。東京農業大に反撃を許した直後の第4Q7分にはQB中西の30ヤードランで突き放し、試合終了間際にもRB大井義一（1年）の3ヤードランで加点した。



東京農業大はQB関叶翔（3年）からWR浅川夏暉（3年）、TE大嶽潤太郎（3年）、WR木村拓海（4年）へのパスで好機をつくるものの決め手を欠

いた。21点を追う第4Q2分、QB関からWR浅川へ22ヤードパスで1TDを返すのが精いっぱいだった。

釧路公立大の伊藤祐介HCは「先制点のパス、次のラン攻撃も狙い通り。下級生を積極的に使い、1年生の大井、2年生の宮川、3年生の畠山が期待にこたえてくれた」とたたえ、「今日の勝利におごらず、優勝するのにふさわしいチームを目指す」と先を見据えた。TDパスとTDラン、LBの守備でも活躍した主将のQB中西は「初戦で課題も多かったが、全道制覇に向けて1勝したことは大きい。北海道大、北海学園大戦でもランを出したい」と気を引き締め、RB陣のリーダーで1TDランの佐々木は「1年生RBもどんどん使いたい。自分もチームのために走るしかない」と決意した。

東京農業大の大類楽コーチは「攻撃陣の伸び悩みとラインの課題が見つかった。1年生が多いので、どれだけ成長できるかだ。この負けを糧にして、1部で2勝、3勝を目指したい」と選手たちの奮起を求め、TDキャッチの浅川は「競り合いの練習が足りない。次は自分が引っ張るつもりで頑張る」と巻き返しを誓った。

第2試合は北海学園大がQB成田滉佑（4年）の2TDパスとTDランの活躍で貫禄勝ちした。北海学園大は第1Qをすべてパスプレーで攻め、ランを織り交ぜた第2Q8分、QB成田の44ヤードランTDで先制。直後にRB末広大貴（2年）の1ヤードランで加点した。再びパスを多用した第3Qには、QB成田がWR福原柊太（1年）へ28ヤード、WR五十嵐勇星（2年）へ12ヤードの連続TD弾を投じて26-0とリードを広げた。



帯広畜産大は26点を追う第3Q、自陣25ヤードからのシリーズでQB桂田陽向（4年）のパスとRB安澤十野（3年）のランでボールを運び、最後は桂田の5ヤードキープでTD。第4Q終了間際にもQB桂田のパスなどで攻め込み、RB宗像海斗（2年）の3ヤードランで追い上げたが、及ばなかった。

北海学園大の高木幸樹HCは「若いチームなので実戦経験を積みたい。立ち上がりのパスは攻撃にリズムを付けるため。QBのTDはたまたまだった。次も勝って、節目の北海道大戦に臨みたい」と冷静に振り返り、主将のQB成田も「先制TDはRBのランで決めたかった。北海道大戦に向けパスの確実性を上げたい。全国に出ても恥ずかしくないチームになって勝ちたい」と決意していた。

帯広畜産大の鏡順之助監督は「攻撃、守備とも細かなミスが失点につながった。2本のTDは、ハーフタイムで気持ちを切り替えられた成果。選手の表情が変わり、元気が出た」と手ごたえも強調。QB桂田も「北海学園大戦でここまで出来た。自分たちも進歩できた」と収穫を上げた。

（学連広報委員 塚田博）